

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2023年3月31日
作成 高齢者支援センター	忠生第2
作成者	手柴秀一

1.開催日時	2023年3月20日	(月)	10:00	～	11:30
2.会場	境川住宅16号棟集会所				
3.主催センター	忠生2				
4.参加人数	14名				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 2人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 1人	(うち、医師 人)	<input type="checkbox"/> 介護事業者 人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 3人	<input type="checkbox"/> 老人会 人	<input type="checkbox"/> 住民 人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会 1人	<input type="checkbox"/> 警察 人	<input type="checkbox"/> 行政 人		
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (ケアマネジャー 6人)				
6.開催テーマ	入院が必要になる時の備え				
7.地域課題	<p>(1)課題設定の背景</p> <p>2021年12月13日に開催した地域ケア推進会議「救急搬送時の連携」にて、治療や入院の際に必要な事を、日ごろから確認・準備しておいた方がよい。市民参加で考えるとよいという意見が出た。</p> <p>(2)検討した地域課題</p> <p>独居世帯、高齢者世帯、身寄りがない人、家族と疎遠または直接支援が見込めないケースは入院が必要になった時に本人・家族・病院・在宅サービス関係者が対応に苦慮する事が多く発生している。協力できる家族がいる人においても散見されている為、入院が必要となった時の備えについて学びを有する必要がある。</p>				
8.会議の内容	<p>(1)内容・目的の確認</p> <p>今後の入院の備えに使える、地域住民にも配布できるチラシを会議参加者の意見を取り入れ作成し、地域住民に配布し備えを広げる事を旨とする。</p> <p>(2)町田病院医療連携課 伊藤氏より 資料を配布して確認・共有</p> <p>入院持ち物(医療保険・高齢者医療制度)※暮らしのてびきP50～52参照 〈障がい者手帳、難病手帳〉〈入院保証金〉〈着替え等〉 入院に対しての心構え〈急変時の希望 延命治療等〉に対する考え方(緊急時の連絡先) 一人暮らしの方…ケアマネジャー、後見人等と予め「もしも…」の時に備え話しておく 家族と同居の方…家族間、兄弟間で予め「もしも…」の時に備え共通の認識を持っておく</p> <p>(3)参加者より 入院等に関して身の周りや地域の現状・課題・感じている事など意見 (4)地域住民にも配布できるチラシ(案)の内容について参加者の意見抽出 (5)まとめ 医療と介護の連携支援センター 佐川氏より</p>				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>(1)課題に対する対応策～会議で確認したすぐに行えること～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限度額適用認定証…入院予定が無くても該当する方は交付を受け備える事ができる。 ・医療保険証の保管場所…体調悪化してからでは聞けないので普段から確認しておく。 ・居宅サービス計画表 第1表 総合的な援助の方針に治療の意向を記入する。(理解を得て行えるところから) <p>(2)今後の地域での展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今後の備えの確認に使えるチラシ」に会議で出た意見を取り入れ修正し、参加者に確認して最終版を作成する。 ・従来からある救急医療情報キット・町プロオリジナルお薬手帳カバー等のツールに加え、「今後の備えの確認に使えるチラシ」を活用して担当している利用者や地域住民に情報を伝え備えを広める。 ・まとめで話があったACPIについて支援者側が利用者・家族が「もしもの時に医療や介護についてどのようにしたいのか」を話し合う機会を持ってもらうように働きかけ、今後地域住民にも知ってもらう機会をつくる必要性を確認した。 				

医療と介護の連携支援センター 確認日

3月31日